

47号
(3月号)
2017年
3月1日

七里ヶ丘こども若者支援研究所
それが社会参加だ!

住所:鎌倉市七里ヶ浜東 2-31-12
連絡先:090-7212-4055
Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
編集長:新舛秀浩
発行編集責任者:滝田衛

いじめ・不登校解決市民サミット実行委員会スタート!

5月4日に開催予定の「いじめ・不登校解決市民サミット」。あと3ヶ月を切った2月12日、実行委員会を結成、15名が参加し第一回目の話し合いが行われました。これまでの経過、これからやるべきことを確認した後、メンバーそれぞれがサミット開催の基本的考え方、会の進め方への思いを語り合いました。「明るいイメージを出したい」「いじめ・不登校がタイトルになっていると、参加する人がいないのでは?」「不登校へのレッテルを払拭したい」「様々な原因がある。多様性を出したい」「家族・当事者にとって解決の糸口となればいい」「当事者の家族は期待してこういったイベントに参加するが、結果解決に繋がるにはほど遠い事がある」etc.様々な思いが交錯した委員会となりました。皆さんの思いを整理して、広報の仕方や進行について議論を重ねて行きたいと思います。



三浦海岸 河津桜を走る京急 YELLOW HAPPY TRAIN 撮影者・川辺悟史さん

サミットの議長は加藤彰彦さん(元沖縄大学学長)、三浦半島4市1町の市長・町長を予定し、横須賀出身芸人の応援ゲスト交渉中です。支援団体と子ども市民が集まります。会場は横須賀芸術劇場「ヨコスカベイサイドポケット」で500人を予定。詳細が決まりましたら、チラシ・SNSなどでお知らせします。これまでに、どこの団体も取り組んでいないサミットにしたいと思います。

委員長・安川有里、副委員長・新舛秀浩 & 新舛育雄(サポート)、小幡沙央里(市議)・加藤裕介(元復興庁職員)、会計・涌井貴暁が中心となり準備を進めます。顧問として島根三枝子さん、小林由紀さん、川辺順子さんがバックアップして下さいます。〈実行委員長・安川有里〉

コラム風 三浦半島市民サミット「今を生きよう みんなOK!」

第二回いじめ・不登校解決市民サミット実行委員会を2/26(日)開催しました。15人が集まり、特にいじめの現状や理解と解決とは?改めて自問自答する機会となりました。子ども若者応援団が向き合った苦戦する子ども若者の現実、いじめ自死した篠原真矢さん(川崎市)とご両親、不登校経験者の学校と自分の辛い発言、発達障害親子の育ちと教育の葛藤、ひきこもりの若者たちの苦闘する生き方... その上で! あえて市民サミット実現です。テーマは「今を生きよう みんなOK!」

昨年不登校を語ってくれた小林さん(中2生)と母が市民サミットのプレゼンテーションしてくれました。当事者と市民が共有できる時間と空間を願う斬新なものでした。論議の結果、以下に決定。

参加型) 当事者 こども若者 市民 支援団体 4市1町行政・教育(一堂に集う...)

楽しい) ことば・音楽・歌・演奏 映像 パフォーマンス(感じ合う...)

今生きる) いじめ 不登校 やりたいこと 家庭 学校 地域(共有する...) (滝田)



2月19日子ども若者応援団会議 「交流から発信へ大議論」



2月15日は公立高校受験日でした。塾に携わる方々から不安と期待の声が寄せられました。そんな近況報告から始まり、来年度から応援団会議を発信型にしようと私が提案致しました。親子関係や、在宅就労、恋愛・結婚、ひきこもり高齢化など12のテーマから皆さんのご意見を頂きました。「テーマを絞ったほうがよいのではないか」「応援団ならではの切り口がほしい」「一つ一つのテーマを丁寧に掘り下げてみては」「1年間の

通した一つの大きな柱になる事を取り入れたほうが良い」「在宅就労といっても対象はどうなるのか」「親子関係をいじめにおける親子関係と限定したほうがいいのでは」「テーマに即し他団体と連携を」と素晴らしいご意見いただきました。

その後会員の龍崎さんが教材選択のプレゼンテーションを行ってくれました。次回応援団会議3月26日です。皆さんのご参加お待ちしております。(新井秀浩)

それぞれの風 全てはチャレンジャー今ここで・・・ここから

○「社会(仕事)は汚れた・冷たい・よどんでいる水槽、だから家に避難した。そうだ！水槽から飛び出そう！！ きれいな大海へ！！ 今僕は大きくキレイな魚として悠々と泳いでいる。自然の中でバランスの良い“頑張り”で。自由の重たさから自分をイタワル(労)ハタラキ(働)へ・・・それが労働(仕事) こんな想いで外出支援 マジェスティックをすすめます」と。涌井貴暁さんの4回連続講座を終了、延べ55人が参加しました。何よりも涌井さんのお人柄がそこにありました。

○1年から不登校の中3生。「高校へは行きます」と一緒に受験の面接シートを作りました。中2年生、1年間の不登校を経て「高校へは行きたい」と学び始めました。子どもは健気です。でも傷つきやすく自分を責めます、「学校へ行けない」「情けない自分」「生きていてもしょうがない」と。

サボってゲームをやっているわけではありません。大人になり始める思春期、自分を芯から問えばシャッターを下ろしたくなるものです、バリアです。誤解は禁物、成長へ向けた自分を守る行為です、バリアは。自分自身の理解と納得、それを成長というのですが、バリアを取り払いシャッターが開きます。その一つが「高校へ」です。多様な自己実現を願い、スポーツでもアニメでも・・・。

○「社会的ひきこもり」(1998年)の著者：齊藤環氏はこう言っています。「不登校自体はすでに現実として、もはや誰もが身近に体験していることです。・・・つまり不登校児を賛美しすぎることは、ことなつたかたちの差別化につながってしまうのではないのでしょうか」と。不登校が「身近に」「賛美しすぎる」との警告(?)は20年たってどうでしょうか・・・。身近ではなく他人事、賛美より辛い現実。

○僕は不登校・発達障害・ひきこもりの子ども若者との付き合いから、あえて彼ら彼女らをチャレンジャーと呼びたい。賛美ではなく、でも賛美します(笑)。そう！すべて子どもはチャレンジャーなのですが、“あえて”チャレンジャーと。未知なる社会、まだ見ぬ世界へのチャレンジャーとして彼ら彼女らの深い洞察力と反省力、そしてそれぞれの個性(異才)を誇りたいと思います。

言い過ぎちゃいましたかね(笑) では2017年度へ進みます。さようなら2016年度 (滝田衛)

【お詫び】先月号(2月号)七里ヶ丘子ども若者支援研究所の住所が間違っておりました。

誤・「七里ヶ浜」→正しくは「七里ヶ浜東」です。訂正してお詫びいたします。(新井秀浩)

【ご参加下さい】
応援団会議は横須賀・市民サポートセンターで行います。誰でも参加できます。途中参加・中座歓迎です。

3月研究所開設日程 相談時間 10時～16時 土日訪問はご相談

1日(水)	Am 深沢の学童見学	14日(火)	他事業
	pm 横須賀市研究所	16日(木)	フリーラウンジ 相談
2日(木)	フリーラウンジ pm相談	19日(日)	鎌倉市ひきこもり講演会
7日(火)	他事業	21日(火)	他事業
9日(木)	他事業	25日(土)	横須賀市ひきこもり講演会
11日(土)	座間市ひきこもり講演会	26日(日)	Pm2 応援団会議
12日(日)	Pm2 サミット実行委員会	27日(月)	相談
13日(月)	相談	30日(木)	発送作業